

# 一般質問

六月二十二日(金)・二十五日(月)・

二十六日(火)の三日間にわたり、二十一人の議員が一般質問を行い、市政全般にわたる問題について、市当局の見解を求めました。



## 子育て支援

**質問** 全国的に子育て世帯優待事業が注目を浴びて(子育て支援センター)

いるが、このサービスに対する桐生市の考え方はどうなのか。

**答弁** 子育て世帯優待事業は、全国的には県単位で事業を実施している。群馬県でも平成十九年度事業として「子育て応援プレミアムカード」の名目で検討中とのことである。桐生市としても、子育て世帯を支援する有効な事業であると認識している。事業実施に向け何が課題であるのか、県からの情報収集や担当部局を中心に研究を深めていきたいと考えている。

質 問 者	
森井福笹田相小野周近周星西福細岡庭小石津寺中	(愛・桐生) (クラブ21) (愛・桐生) (日本共産党) (愛・桐生) (クラブ21) (愛・桐生) (公明クラブ) (愛・桐生) (クラブ21) (愛・桐生) (友和会) (愛・桐生) (クラブ21) (愛・桐生) (薫風会) (クラブ21) (友和会) (日本共産党) (公明クラブ) (日本共産党)
山田島井島沢田小野東藤藤野牧田谷部山滝井久口田	
享泰賢重忠崇淳照健雅定秀光昌純由芳秀博正米	
大彦一俊一文二二司彦利乗雄弘朗紀江子人宣蔵	

## 選挙公報の発行

**質問** 群馬県内十二市における選挙公報の発行状況と、桐生市が選挙公報を発行しなかった理由は何か。

**答弁** 県内において、選挙公報を発行していない市は、安中市と桐生市の二市となっている。選挙公報の発行については、平成十五年から検討を続けており、統一地方選の近づいた昨年度も選挙管理委員会で協議したが、市議選の選挙区が三つに分けられて経費がかさむこと、配布方法や期間



(期日前投票)

が短いことを考慮して発行を見送った。ただし、次回の選挙においては選挙公報を発行したい。

## 藪塚インターへのアクセス

**質問** (仮称)藪塚インターへのアクセス道として、(中通り大橋線の橋脚)



中通り大橋線、桐生大橋線が位置付けられているが、市外の対応はどうか。

**答弁** 中通り大橋線延伸ルートの必要性は明確になつてはいたが、合併に伴い改めて太田市に位置付けをお願いしている。桐生大橋線の延伸部分は、県道桐生伊勢崎線の阿左美バイパスとして県事業により着手され、平成二十四年度を目途に整備を進めており、(仮称)藪塚インターから県道桐生伊勢崎線までの拡幅整備は、今年度末には暫定二車線での開通が予定されている。

## 厚生病院の医師不足

**質問** 厚生病院における休止診療科利用者への対策と医師や看護師確保への桐生市の取り組みはどうか。

**答弁** 院内医師の協力体制を整え対応を図っているが、専門的な治療を必要とする患者には近隣の専門医を紹介するなど、治療に支障をきたさぬよう配慮しているとのことである。一次救急医療の充実により、二次救急医療指定病院である厚生病院などの医療従事者の労働状況が改善されるこ

(桐生厚生総合病院)



とは、医師や看護師の確保にもつながることから、一次と二次の病診連携について広く周知していきたい。

## 厚生病院の医師不足

**質問** 厚生病院の神経内科、脳神経外科の現状はどうか。(桐生厚生総合病院)

うか。今後の医師確保や医師会との連携はどうか。

**答弁** 神経内科は週一回午前中のみ非常勤医師による予約制の診療を行っており、脳神経外科は医師間の協力のもと三人で診療にあたっている。また、桐生市医師会とは定期的に病診連携会議を開催して連携を図っているとのことである。なお、医師の確保は全国的な問題であり、全国市長会を通じ医師偏在解消などの要望を国に行っているが、奨学金制度導入の要望も検討していきたい。

## 一人暮らし高齢者対策

**質問** 一人暮らしや在宅高齢者への福祉対策には、

(高齢福祉課)



どのようなものがあるか。

**答弁** 一人暮らし高齢者には、公衆浴場無料入浴券の交付や電磁調理器など日常生活用具の給付を行う制度があり、さらに介護認定を受けている人には緊急通報装置の貸与制度もある。在宅高齢者には、はり・灸・マッサージサービス券や調髪サービス券の交付、配食サービスなどがある。老老介護対策としては、在宅寝たきり高齢者に紙おむつ利用券などを配付しており、その際には相談や状況の把握に努め、対処している。

## 市営住宅の連帯保証人

**質問** 市営住宅入居決定者の連帯保証人二人のうち一人を市内在住者とした理由は何か。また、みどり市在住者も市内在住と同様の資格要件とならないか。

**答弁** 連帯保証人は、入居者の一切の責めについて連帯保証の責めを負うものとなっており、一人を市内に住所を有する者と定めた理由は、入居者に対する相談や緊急時に連絡が容易なことが主な要因である。なお、みどり市在住者も市内

(市営住宅)



在住者と同様の連帯保証人の資格要件にすることについては、他市の状況も調査して検討していきたい。

## (仮称)保健センター

**質問** 市長のマニフェストの中で、建設の是非を含めて見直しを進める」としているが、前期の市議会で決定した事業を市長一人がかつがえすことをどう考えるのか。なぜ、この時期に見直しなのか。

**答弁** (仮称)保健センターの建設は合併関連事業であり、継続費予算として市議会で可決されたことは十分承知しているが、新たに市民から付託を受けた市長として、市民の声を聞く中

(市役所)



で、今この時期に必要な施設かどうか、規模や内容も含め、改めて総合的に判断したいと思っている。

## 高校入試

**質問** 平成十八年度から県立普通高校の全県一区制導入に伴い、桐生市在住生徒の入学数に変化が生じたか。また、今後の進路指導をどう考えているのか。

**答弁** 高校入試の全県一区制導入に伴い、普通高校において受験地域が広域化し、桐生市でも変化が見られる。桐生高校では市内在住の入学者は、平成十六年度は五十三・二パーセントから平成十八年度は三十三・六パーセントとなった。

このため、今回の受験結果を踏まえて調査し、進路指導を適切に行い、生徒、保護者の不安解消に努めたい。

(市内の県立高校)





## 保育園の民間移譲

質問 公立保育園の人員体制や老朽化などの問題、

(市内の保育園)



民間移譲についてどう考えているのか。

答弁 旧桐生市内の公立三園の人事体制は臨時職員も含めているが、人事担当課と協議し、より良い職員体制を目指したい。また、公立保育園の老朽化などの問題は、補修か所の把握に努めて周辺事情などを精査し検討したい。なお、民間移譲を当分の間見合わせる事については、保育園のあるべき姿や保育環境の充実に向けて関係者との話し合いをさらに深め、再度判断することを考えている。

## 下水道普及

質問 市内各地区の下水道普及率の現状と今後の方針及び財源のねん出はどうか。

答弁 平成十八年度末の桐生市の下水道普及率は七五・三パーセントであり、地区ごとでは、川内地区約二六パーセント、梅田地区約九一パーセント、菱沢地区約九三パーセント、相生地区約七六パーセントとなっている。下水道整備は、国の補助金や起債、

(境野水処理センター)



受益者負担金などを財源に毎年工事を進めており、今後も普及率の向上を目指して鋭意努力していきたい。

## グラウンドゴルフ場

質問 常設のグラウンドゴルフ場のある県内自治体はどこか、また桐生市の競技人口はどれくらいか。

答弁 常設のグラウンドゴルフ場は、市内には小梅琴平公園など四か所あり、県内他市では、伊勢崎市四か所、太田市二か所、館林市一か所となっている。なお、桐生グラウンドゴルフ協会に登録されている人数は、平成十九年度は四十団体九百十三人となっており、年々増加している。グラウ

(グラウンドゴルフ)



ンドゴルフは、高齢者の健康づくりのために適したスポーツであるので、機会を捉え支援していきたい。

## 道路整備

質問 川内町から青葉台に抜ける道路や、川内町名久木地区から梅田町に抜ける道路などについて整備する予定はあるのか。

答弁 川内町から堤町の青葉台に抜ける市道は、幅員が狭く急勾配な道路で、通行上危険があるため、昭和六十年より車両を通行止めにしており、整備には膨大な工費を要するため、検討していききたい。また、名久木地区から梅田町に抜ける道路は、林道として計

(林道岡平線)



画され、財政事情などにより工事の継続には至っていないが、今後とも早期再開に向けて努力していききたい。

## (仮称)保健センター

質問 (仮称)保健センターの建設について、限りなく中止の方向とした理由は何か。また、予定地は将来を見据えればみどり市との合併後の保健事業の拠点となる重要な位置ではないか。

(市役所)



答弁 (仮称)保健センター建設の見直しについては、市民の意見を聞く中で判断したいと考えており、限りなく中止の方向となった理由は、様々な意見の中でこの時期に建設が必要かどうかということも判断材料だった。なお、みどり市との合併に関しても、広域調整室の中で場所や内容について精査し検討していききたい。

## 大川美術館

質問 大川美術館収蔵品の管理や目録はどうなっているのか。また、桐生市からの補助金の目的は何か。

(大川美術館)



答弁 大川美術館の美術作品の管理は、個別の作品台帳が作成され、データベース化により管理が行われており、全収蔵作品の目録の作成は、今年度末を目途に図版による目録の整備が行われている。なお、桐生市から大川美術館への補助金は、管理運営について支援して桐生市の文化振興の推進を図ることを目的とし、毎年補助金の実績報告時に事業報告や決算報告など内容を精査している。

## 学校適正規模・適正配置

**質問** 幼稚園、小学校、中学校の適正規模・適正配置はどのように計画されたのか。

**答弁** 幼稚園の計画は、少子化時代における幼児教育を考える会」に諮問し、平成十八年十一月に答申を受け、実施について検討している。小学校及び中学校の計画は、平成二年四月作成の第三次総合計画で研究を進めることが必要とされ、平成十三年四月作成の第四次総合計画で適正配置につ



(昭和中学校)

いて推進することが盛り込まれ、これらを基本として「小・中学校統合事業」に取り組んでいる。

## 保険証の取り上げ

**質問** 国保税滞納に関わらず、こども医療費の無料

(保険年金課)



化は無条件に行うべきであり、六十五歳以上の低所得者や低所得世帯にも国保税滞納は交付すべきでないか。

**答弁** こども医療費の無料化については、各関係部署と検討していきたい。また、資格証明書の交付は、各対象者の納税相談を行いながら判断しているが、一年間の滞納で判断するのではなく、納税相談において何度も拒絶力を押し計り、また苦しい事情も聞き、納税相談を重ねながら行っており、今後も各対象者の状況を把握し対応していきたい。

## 多重債務者救済

**質問** 多重債務者に対する相談の職員対応及びチラシや広報の宣伝効果についてどのように行うのか。

**答弁** 現在、債務整理方法の指導や過払金返還請求などに対する助言や法律的な対応として、桐生市の無料法律相談のほか、弁護士会や司法書士会を紹介している。また、多重債務者救済に対応するための実務に役立つ職員研修の充実が喫緊の課題であり、関係部局と連携しながら対応したい。



(無料法律相談所)

啓発活動については、広報きりゅうやホームページ、消費生活の出前講座などで周知に努めている。

## 妊婦無料健康診査

**質問** 子供を生み、育てやすいまちづくりをするの

(離乳食講習)



であるなら、平成二十年度からの妊婦健康診査について公費負担を五回とすることはできないか。

**答弁** 厚生労働省から通知があり、妊婦健康診査を含めた少子化対策について総額で拡充の措置がされ、最低限五回程度の公費負担が望ましいとは承知している。桐生市では他市に先駆け三枚の受診票を交付していたが、「子育て日本一」のまちを目指すため、平成二十年度に向けて妊婦の経済的負担軽減と少子化対策に努力していきたい。

## 子育て都市桐生の実現

**質問** 日本一の子育て都市の実現に向け、どのような志と施策があるのか。

**答弁** 明日を担う人材を育成することが今後を左右する重要な課題と認識し、市民一人一人の子育てに対する意識の醸成を図ることにより実現を目指したい。具体的な支援策としては児童手当の増額など、現状の児童手当と併せながら対象となる児童の範囲を検討し、医療面からは未就学児を対象とした乳幼児医療助成の



(市役所)

対象範囲の拡大を進めたいと考えており、財源など実施に向けて関係部署と協議を行い、早急に検討したい。

## 市民が主役の政治

**質問** 市民が主役の市政実現について、どのようなことをするのか。

(市役所)

**答弁** 市民が主役の市政とは、行政の中心に市民がいることで、市民の視点で行政運営を行うことであると考えている。そのため、七月に設置する「桐生市まちづくり市民会議」において、桐生市が進める施策や計画の作成段階から市民の参画を考えている。また、市民が集まる場所へ出向き、直接話をお聞きする、桐



(市役所)

生版網の目トーク」を実施して、より多くの市民の声を行政に反映させたいと考えている。